

氏名（本籍）	劉 多虔		
学位の種類	博士（ 学術 ）		
学位記番号	博 甲 第 7173 号		
学位授与年月日	平成 26 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人文社会科学研究科		
学位論文題目	NHKとKBS大河ドラマの比較研究 —「徳川家康」と「李成桂」の英雄像解釈—		
主 査	筑波大学教 授	Ph.D.	今 泉 容 子
副 査	筑波大学教 授	博士（宗教学）	津 城 寛 文
副 査	筑波大学教 授	博士（文学）	徳 丸 亜 木
副 査	筑波大学准教授	博士（文学）	朴 宣 美

論 文 の 要 旨

本論文の目的は、日本と韓国のテレビが放映してきた「大河ドラマ」に着眼して、それらが主に社会的な視点で研究されてきたことへの反省から、映像そのものを詳細に分析することであり、また日韓の「英雄像」の形成手法にみられる共通性を検証することである。さらに、時代の変遷にともなって「英雄像」が変化していくプロセスが、日本と韓国の大河ドラマにおいて同じであることも、明らかにしようとする。

大河ドラマの研究はまだ本格的になされていないうえ、日本と韓国の比較という異文化比較は行われたことがなかった。本論文はその未開拓の研究を実践するため、日本と韓国で放映された大河ドラマのうち、入手可能なものをすべて調査・分析した結果、「1983年」という同じ年に、日本の『徳川家康』と韓国の『開国』が放映され、どちらも国の基礎（江戸幕府／朝鮮王朝）をつくった「英雄」の生涯がテーマになったドラマであるばかりでなく、その英雄像を理想化する手法が酷似していることが突き止められた。両文化圏における英雄像の酷似を実証するために、日本の『徳川家康』と韓国の『開国』の最初から最後まで映像シーンに詳細なショット分析をほどこし、日韓の映像シーンを比較対照させていった。

さらに、約15年後の1990年代末に、両文化圏の大河ドラマがふたたび同じ英雄をテーマとして設定し、両国が同じようにネガティブな英雄像を提示したことを発見し、日韓ドラマの「共通性」を緻密な映像分析によって実証しようとする。具体的に言えば、日本の『葵徳川三代』（2000年）が描き出す徳川家康の残忍な面が強調され、韓国の『龍の涙』（1996年）が描き出す李成桂の好ましくない面が強調されたドラマづくりになったことが解明されるのである。

本論文は、以下のように7つの章および序章・結章からなっている。

序章

第1章 NHK大河ドラマ『徳川家康』

第2章	NHK大河ドラマ『葵徳川三代』
第3章	NHK大河ドラマ『徳川家康』と『葵徳川三代』の比較
第4章	KBS大河ドラマ『開国』
第5章	KBS大河ドラマ『龍の涙』
第6章	KBS大河ドラマ『開国』と『龍の涙』の比較
第7章	NHKとKBS大河ドラマの表象比較：徳川家康と李成桂
結章	

序章では、数少ない先行研究のなかに本論文を位置づけた上で、本論文の目的を明らかにしている。

第1章では、徳川家康が平和志向の武将であり、妻子殺しは正当な理由があつての行為であり、民百姓を思いやる心を持ち、みなから尊敬される人物であることが、映像のショット分析から実証されていく。たとえば、妻殺しに発展する夫婦関係に関しては、妻と愛人・今川氏真が親密さを深めていることが、その男女のしっかりと重ね合わせられた手を大きく映し出す「クローズアップ」によって明確に描き出され、責めは妻にあったことが映像的に語られていることを指摘する。家康が妻のあざ笑いに、怒りのこぶしを握るところも「クローズアップ」で表現され、ここでも妻殺しの正当化がはかられることが考察される。こうして「徳川家康」という責められるべき要素をもたない英雄像が、1983年の『徳川家康』において完成されていることを、本論文は一つ一つのシーンの分析によって実証していく。

第2章では『葵徳川三代』が映像分析の対象とされ、第1章で明らかになった『徳川家康』の英雄像とは正反対のネガティブな家康像が形成されていることが実証されていく。父子関係、民百姓との関係、家康本人の野望など、どの側面をとっても、残忍で自己中心的な男が見える仕掛けになっている。

第3章は本論文の前半の山場であり、第1章で考察した『徳川家康』（1983年）と第2章で考察した『葵徳川三代』における二つの英雄像の相違点を明確に論じている。同じ場面における家康のアクションの違いを、テレビドラマから抜粋した一連の静止画を対比並置することによって、ふたつの家康像の違いが顕著に浮き彫りになる。たとえば、戦いに勝利したときの家康は、1983年版では浮かれることなく沈着であり、負傷した家臣に気を配って薬を塗ってやっている優しさが強調されている。それに対して、2000年版では勝利に高笑いし、家臣のことなど目もくれず、敵の惨殺に喜んで、さらに攻めていこうとする残忍さが強調されている。こうした違いは、関ヶ原の戦いや大阪の陣など、どの戦いのシーンにおいてもつねに見られることが、映像分析によって明らかにされていく。

第4章と第5章では、韓国KBSの大河ドラマに焦点が移る。第4章では1983年の『開国』における李成桂の表象が解明されていく。徳川家康が江戸幕府を開いたように、李成桂は朝鮮王朝を打ち立てた英雄であり、夫婦関係においては妻をたてる心優しい男であり、民百姓にたいしては心から慕われ、必要とされる武将である。それが数多い映像シーンの分析によって、実証されていく。

ところが、第5章の『龍の涙』になると、李成桂のイメージはネガティブなものに変化する。ちょうど日本の徳川家康が、ポジティブなイメージから数十年後のネガティブなイメージへと変化するように。ネガティブなイメージの英雄像を提示した大河ドラマは、日本でも韓国でも「1990年代末」に制作されたことに、本論文は大きな意味を見出している。

第7章は、本論文のもっとも主張したい考察がなされる。NHKとKBSが徳川家康／李成桂という英雄像をめぐる、1983年から1990年代末までの約15年のあいだに、同様に大きな変化を遂げたという説を立てるのである。日韓の大河ドラマを比較することによって、国別ではなく、時代別の変化が著しいことが明らかにされる。「1983年」の徳川家康像と李成桂像は、不都合な面をもたない英雄像であり、小さな不都合が提示

されてはいても、それらは納得のいくように解決され、英雄像には傷がつかない。ところが、約15年たった1990年代末には、日韓の英雄像が等しく修正されて、日本の徳川家康は残忍で好戦的な男、韓国の李成桂は病床に伏したひ弱な男として再登場する。この英雄像の修正は、日韓の文化的な相違をこえて、日韓の大河ドラマに共通した変遷であることを、本論文は突き止め、それを映像分析によって緻密に検証したのである。

結章には、NHKとKBSの初回から今日までの全ドラマのリストが表として掲載され、よい資料になっている。

審査の要旨

1 批評

本論文は、日本のNHKと韓国のKBSが放映してきた「大河ドラマ」に着眼し、両文化圏において似通った位置を占める「徳川家康」と「李成桂」という英雄を主人公にしたドラマを比較考察しようとする意欲的な論文である。これまでの大河ドラマ研究では、日韓の両国を本格的に「比較」するものは皆無であったと言ってよい。そうした大河ドラマ研究の間隙を埋めるものとして、本論文は位置づけられる。

大河ドラマに着目した本論文は、ひとつの大きな特徴を提示している。それは、詳細な映像分析が実践されていて、論文全体に映像からの抜粋が（静止画に変換されて）掲載されていることである。セリフに頼らず、視覚的に作品のメッセージを引き出そうとするヴィジュアルなアプローチが貫かれている。全部で7つの章からなる論文であるが、各章ごとに100点をこえる図が、議論の証拠として提示されている。

膨大なショット分析の成果を読むだけで、日本の『徳川家康』（1983年）と『葵徳川三代』（2000年）、および韓国の『開国』（1983年）と『龍の涙』（1996年）の4作品相互の共通点と相違点が、細部にいたるまで手に取るように明らかになる。大河ドラマ作品の粘り強い分析作業は、大いに評価できるものである。

本論文は力作ではあるが、問題がないわけではない。第一の問題として指摘できるのは、徳川家康と李成桂を主人公にした4つのドラマが、「日本」と「韓国」の文化的な相違ではなく、「1983年」と「1990年代末」の「時代別の相違」を示している、という指摘で終わっていること。「なぜ」そのような時代別の相違が生じたのか、映像の文化史のなかの「何が」要因となって15年間にそのような変化が生じたのか、という疑問には、今後ぜひ取り組むことが望まれよう。

第二の問題は、日韓の大河ドラマを取り上げたにもかかわらず、日韓の文化的相違が研究対象から外されていること。また「大河ドラマ」という大きな機構全体を、日本と韓国で比較してみるという広がりが見られないこと。日韓の「大河ドラマ」の相違を文化的な側面から探究することは、今後必要な取り組みとなろう。

とはいえ、このような詳細な映像分析をほどこした大河ドラマ研究は前例がないだけに、本論文の成果は極めて優れたものであると判断される。

2 最終試験

平成26年11月10日、人文社会科学研究科学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと、本論文について著者に説明を求めた後、関連事項について質疑応答を行った。審議の結果、審査委員全員一致で合格と判定された。

3 結論

上記の論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。